

出版にあたって

本特別報告第2号は、「新潟県植物誌（遺稿）」と「波之跡（池上先生活動記録 1925～1971年）」の2部で構成している。

[第1部]

池上義信先生は、新潟県に分布する植物についてご自身で確認した種、文献に掲載された種、また、県内の同好者の採集した種など記録に留め、「新潟県植物誌」として集大成しようと考えておられたようである。池上先生のご親族から寄贈された資料の中から丹念に記録された資料が残されていることを知り、そのまま原稿を保存するだけでは、日の目を見ることができなくなる可能性もあるので、記録された目録をワープロに入力し、記入の不備の点を追加して公開することにした。先生の整理された目録は、私たちに残して頂いた貴重な財産であると思っている。

本目録は種名の後に、分布地点をあげ、さらにその種に関する関連文献を掲載している。また、種内の変種や品種も主に母種の次に取り上げている。

完全かつ正確に確認してから公表すべきとの完璧主義の先生の教えに反することとなるが、先生の記録は、新潟県の植物相をまとめる上では、不可欠であると判断して「新潟県植物誌 [遺稿] 池上義信」として出版することにした。先生の目録をもとに、さらなる調査を進めることにより、県内の植物相の全容解明に役立つものと信ずる。その根拠には、過去に出版された雑誌や植物誌等の中で「新潟県で確認された種」の出典が記録されているからである。新たにその記録をたどるには、莫大な時間と困難を伴うことになるだろう。

目録の科名は、主に本田正次の「植物名彙」、分類体系は、伊藤 洋の新高等植物分類表にそれぞれ準じているとみられ、学名を追加して出版することも考えたが、近年の学名の改変が大幅に進められているので、遺稿のままで出版することにした。目録の一部に学名が記録されているが、先生ご自身の記入である。

本植物誌の追加（書き込み）は、主に1980年以前まで、それ以降のものは少ないようである。新たな植物の追加は、先生監修の「新潟県植物分布図集 1980～2000」に掲載されるようになったとみられる。

[第2部]

池上先生の約半世紀にわたって活動されてきた記録である。植物との出会い、人との出会いなどが克明に記録されており、先生が残されている植物標本や資料の整理に欠くことのできない貴重な資料である。加えて第2次世界大戦を間に挟んだ生々しい記録である。翌日は何が起こるか不安定な戦争という激動の時にも、淡々と目的とすることに信念を持ち続けて活動された先生の超人的な記録でもある。僅かな時間でも植物への関心を緩めることなく、あらゆる機会に植物を観察されてきた生き方に、深い感銘を受け、驚きでもある。「感想もなく潤色もなく、唯、事実を羅列せるもの」とのメモもあるが、全体をとおしてみると、人が如何なる生き方をすべきか、これまでの生き方に反省させられることが多いと思う。

以上、本特別報告を活用することにより、新潟県の植物相のまとめと、これからの活躍の糧にしていただければ幸いである（石沢）。